

インドネシア・フェスティバル 2012

今月のレポートは日本事務所の須川、ハサンからお届けします。

9月8日(土)と9日(日)の2日間、六本木の東京ミッドタウンで開催された「インドネシア・フェスティバル」へ行ってきましたので、その様子をご報告します。

この「インドネシア・フェスティバル」は、在日インドネシア大使館の主催により、毎年行われています。今年のテーマは、「カラフル・インドネシア」ということで、そのテーマのとおり、インドネシアの多様な文化に触れることができました。

展示ブースでは、インドネシアの観光名所の写真や伝統工芸品の展示、アクセサリーの販売等が行われており、どのブースも来場者でにぎわっていました。中でも、無形世界遺産にも指定されているバティック(ろうけつ染め)の実演は、大変興味深く、このような日本ではなかなか見る機会がないものが目の前で見られるというのはフェスティバルならではの魅力です。



バティック(ろうけつ染め)の実演

同ブース内には先月気仙沼で行われた「インドネシア・パレード」の写真展も開催されていました。気仙沼市は2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けましたが、そんな中、ユドヨノ大統領自身が気仙沼市を訪問され、復興支援として200万ドルの義援金を寄贈された経緯もあり、非常に結びつきが強い街の一つでもあります。



大人気のインドネシア料理の屋台

またイベントスペースでは、数多くのインドネシアレストランが出店し、ナンゴレンをはじめ、ミーゴレンやサテカンビン、ビンタンビールなど、インドネシアでお馴染みの料理やドリンクを販売。それらを求めてインドネシア人・日本人・欧米人など様々な民族が行列を作るという不思議な光景も見られました。

ステージでは、インドネシアで製作された映画の宣伝やインドネシアマジシャンによるマジックショー、バリ舞踊、ジャワ舞踊などの伝統芸能、インドネシアヒップホップライブなど過去から現代のインドネシアが体感できるように構成されていました。伝統芸能の中では、アチェ州のサマン・ダンスが印象的でした。このサマン・ダンスは、「千の手の踊り」とも呼ばれ、ユネスコの無形文化遺産緊急保護リストにも登録されているそうです。また、インドネシアでも珍しいカリマンタンやパプアニューギニアの踊りも披露されました。

《インドネシアの伝統芸能》



アチェ州のサマン・ダンス



インドネシアでもなかなか見られないカリマンタン舞踊



お馴染みのバリ舞踊



インドネシアの格闘技「ブンチャック・シラット」

当日は天候にも恵まれ、芝生の上に座りながら舞踊を見たり音楽を聴いたり、時にはみんなで歌ったりと非常に盛り上がったインドネシア・フェスティバル 2012。大使館の発表によると、例年より多くの人々が訪れ、2日間の来場者数は約1万2千人だったとのこと。

インドネシア・フェスティバルは、インドネシアの文化や伝統を体験するだけでなく、日本人とインドネシア人の出会いの場でもあります。両国の友好関係を保ち続けるためにも、お互いの文化を理解・尊重することが大切だと感じました。余談ですが、ジャカルタでは9月23日～30日までの日程で日本祭りが開催されます。

以上

<これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートは[こちら](#)から>

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク (PT. JC内) 概要★

所在地：WISMA NUSANTARA BUILDING 24th Floor

Jl. M. H Thamrin Kav 59 Jakarta Pusat Indonesia 10350

デスク担当者：PT.JC 武井 和宏 (たけい かずひろ)

対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から[公益社団法人 日本インドネシア経済協力事業協会](#)に業務を委託）。ご利用に当たっては、「[岡山県インドネシアビジネスサポートデスク](#)」[利用の手引き](#)をご覧ください。のうえ、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#)（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。